

<福島県知事賞>

無知ということの怖さ

白河市立白河第二中学校

3年 中丸 柊花

私は、今まで税金というものが嫌いだった。税金は、私が生活していく中でたくさん
のことに伴ってきた。例えば、お菓子を買うとき、服を買うとき、大人が給料を貰うと
きにまでそれはつきものだ。どうして税金を払ったり取られたりしなきゃいけないの、
税金なんてなくなってしまえばいいのに。これが私の税に対する正直な思いだった。だ
が、それは私の税についての知識が皆無であり、「お金を取られる」というイメージが
定着し、大切さを分かろうと思わなかったからだろう。しかし、あることがきっかけで
私が抱いていた税のイメージは大きく覆されることになる。

この間、社会の授業で租税教室があった。税理士の方が学校において下さり、税につ
いて正しい理解が持てるよう授業をしていただくというものだ。その授業の前半、私た
ちはあるビデオを見た。そのビデオの内容は、あるサラリーマンの男性が自分の給料明
細を見て、税金のせいで給料が減っている。どうして税金なんてものがこの世にあるの
だろう。そんなものなくなってしまえばいいのに、と愚痴をこぼすと税のない世に突然
移動するというものだ。私は、税金のない世界なんて夢みたいでいいな、と思っていた。
ところが、その世界を見たとき私は、頭を強く殴られたようなショックが全身を貫いた。
そこは、道路はガタガタで、警察を呼ぶのに大金がかかり、学生はお金がなくて学校に
通えず昼間から仕事をしていて、火事で自分の家が燃え、消防署に連絡すると、どのよ
うなコースがよろしいですか、と聞かれるような想像を絶するものだった。悪い夢を見
ているかのように信じられなかった。私が理想としていた税のない世界が一気に崩れ落
ちた瞬間だった。この出来事で私の税に対するイメージは完全に覆された。

それから私は、税に興味を持ち、税についてたくさんのことを調べた。すると、今まで知らなかったことがたくさん分かって、世界が広がったようだった。一つは、所得税、消費税、資産税など税金にはいろいろな種類があること、もう一つは税金は幼稚園や小中学校、図書館や公民館、消防署、警察署、病院などの公共の施設、また、そこで働く人達の給料など多くの使い道があることが分かった。

税金の使い道を調べて思ったことは、安全や治安、健康や生活を守るものは全て税金で賄われているということだ。私は、税金の事を何も知らずに「税金なんていらない」「なくなっしまえばいい」など軽率に口に出してしまっていた。こんな私の軽い考えは、あのビデオがなければ変わらなかったと思う。だから、租税教室は全国の小中学生にとっては、税について学べる、とても良い機会だと感じた。私は租税教室で学んだ一人だ。学んだことを活かし、日本の国民としての自覚を持ってしっかり税を納めつつ、この拙い文章を終わりにしようと思う。